写真提供 / 東京新聞・半田滋

第２回シンポジウム　「護憲」を超えて

対テロ戦争における日本の役割と自衛隊

7月26日(土)

開会：午後 1 時 45 分～閉会：4 時 45 分

（開場：午後 1 時 20 分）

会場：千代田区立日比谷図書文化館 大ホール

参加申し込み方法

「自衛隊を活かす会」ホームページ（http://kenpou-jieitai.jp）から。

※事前予約制

マスコミの方も人数把握のため申込みをお願いします。テレビカメラを入れる場合は、事前に会場側に知らせ、取材申請書を提出する必要がありますので、**参加申込みの際にその旨を明記してください。**

都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」徒歩3分 ／ ●JR「新橋駅」徒歩10分
東京メトロ ●千代田線 ●日比谷線 ●丸ノ内線「霞ヶ関駅」徒歩5分

参加費
1,000 円
（資料代）

アフガニスタンにおけるアメリカの対テロ戦争が壮大な失敗を迎えようとしている。その失敗の結果、テロ集団がパキスタンやシリアの情勢を緊迫させるまでになり、イラクでは政権が崩壊の危機に立たされている。この対テロ戦争において、アメリカに代わって日本が何をやるべきかを探究することが求められている。

政府は集団的自衛権を認める閣議決定を行ったが、対テロ戦争においても、「日本の安全にかかわる」として、武力を行使する道を選ぶのか。それによって日本がテロの標的とされることにならないのか。

「自衛隊を活かす会」は、アフガニスタンや中東におけるテロ問題を解決する上で、日本が絶好の位置にあると考える。中東問題やテロ問題の専門家、元自衛官を招き、徹底的に討論する。

発言者：酒井　啓子（千葉大学教授）
宮坂　直史（防衛大学校教授）
渡邊　隆（予定）（元陸上自衛隊東北方面総監）
柳澤　協二（元内閣官房副長官補）
伊勢﨑賢治（東京外国語大学教授）
加藤　朗　（桜美林大学教授）

主催：自衛隊を活かす :21 世紀の憲法と防衛を考える会
（略称）「自衛隊を活かす会」

「自衛隊を活かす：21 世紀の憲法と防衛を考える会」とは？

2014 年 6 月 7 日発足。自衛隊を否定するのでもなく、国防軍や集団的自衛権に走るのでもなく、現行憲法のもとで生まれた自衛隊の可能性を探り、活かすことを目的とし（設立趣意書参照）、議論の場を提供するとともに、提言活動などを行う。

◉呼びかけ人
柳澤協二〈代表〉（元内閣官房副長官補、国際地政学研究所理事長）/ **伊勢﨑賢治**（東京外国語大学教授、元国連平和維持軍武装解除部長）/ **加藤朗**（桜林大学教授、同国際学研究所所長代理）